

マラウイ月報(2015年7月)

主な出来事

【内政】

- マラウイ独立51周年記念式典開催
- 反汚職局企業局長殺人事件に関する正義と平和のためのカトリック委員会による捜査

【外政】

- モザンビーク難民のマラウイへの流入
- ニャウジュ反汚職局企業局長殺人事件について、ドナー国が事件の真相解明を要求

【経済】

- 日本政府によるムワンザ県病院整備支援
- 一人当たりの国民総所得(GNI)250米ドル

【内政】

- ・ ジョイス・バンダ前大統領が身の安全について懸念を表明

昨年の大統領選挙後から国外での滞在を余儀なくされているジョイス・バンダ前大統領が、ムタリカ政権によって自分と家族の安全が脅かされていると懸念を表明。夫のリッチャード・バンダは当地外交団にも妻が直面する差し迫った危険について警告した。(7月1日、デイリータイムズ紙1, 3面)

- ・ マラウイ独立51周年記念式典開催

7月6日、マラウイ独立51周年記念式典がブランタイヤのカムズ・スタジアムで開催された。出席したムタリカ大統領は式典のテーマである「包括的な開発に向けた経済改革」に向けて、国民に対し愛国心を持ち、誠実であり、勤勉に働くよう(3つの柱)呼びかけた。また、政権の最優先課題として外国からの投資誘致、職業訓練学校を通じた青少年のスキル開発及び労働力の拡大、公共セクター改革、そしてグリーン・イニシアティブによる農業開発の4つを挙げた。式典には、ザンビアのルング大統領夫妻も出席し、マラウイ・ザンビア両国を「結合体双生児(Siamese Twins)」と称え、友好な二国間関係を強調した。(7月7日、ネーション紙1, 2, 3面、デイリータイムズ紙1, 3面)

- ・ 反汚職局企業局長イッサ・ニジャウジュ殺人事件に関する正義と平和のためのカトリック委員会による捜査

6月末に起きた反汚職局企業局長イッサ・ニジャウジュ殺人事件について、正義と平和のためのカトリック委員会は本事件が当国における汚職との闘いに対して負の影響をもたらすことを危惧し

ており、警察、政府、世論、メディア、裁判所及び外交団へ事件の真相究明に取り組むよう働きかけた。(7月8日、ネーション紙2面、デイリータイムズ紙1, 3面)

・ **デモ予告によりムタリカ大統領が「2011年7月20日デモ事件」の犠牲者追悼式欠席**

ムタリカ大統領のNGO関係顧問バムジ氏によると、ムタリカ大統領は2011年7月20日に起きた反政府デモによる犠牲者追悼式に出席する予定だったが、同日に市民社会団体によるデモが予告されていたため、欠席を余儀なくされた。兄の故ビング・ワ・ムタリカ大統領が犠牲者のことをデモ中に略奪を行った泥棒と呼んでいたのに対し、ムタリカ現大統領は犠牲者を泥棒呼ばわりすることには反対で、7月20日の追悼式を国民に対し平和の尊さを説き、国民を団結させる機会としたいと述べた。(7月21日、ネーション紙3面、デイリータイムズ紙3面)

・ **ムタリカ大統領、ヌタタ元大統領法務顧問及びニヤサ・タイムズ紙を名誉毀損で起訴**

ムタリカ大統領は兄の故ビング・ワ・ムタリカ大統領の法務顧問でムタリカ政権批判者のヌタタ氏及びニヤサ・タイムズ紙が、兄のムタリカ政権もまた92億クワチャのキャッシュゲート事件に関わっていたと報道した件について、名誉を毀損したとして両者を訴えた。(7月27日、ネーション紙3面)

【外政】

・ **モザンビーク難民のマラウイへの流入**

モザンビークの反政府勢力レナモの脅威により、多数の難民がモザンビークからマラウイに流入しており、7月11日現在、国境の町ムワンザに678人のモザンビーク難民が到着したことラポゾ・ムワンザ地区委員が発表した。(7月12日、サンデータイムズ紙3面)

・ **マラウイ、英国検察官にキャッシュゲート事件捜査を要請**

マラウイ政府は英国国際開発省(DFID)を通し、キャッシュゲート事件捜査における司法取引等技術的専門知識を提供するよう2名の検察官の派遣要請を行った。1名は反汚職局に配属され、もう1名は公訴局長官オフィスに配属予定。(7月18日、ウィークエンド・ネーション紙1, 2, 3, 4面)

・ **ニャウジュ反汚職局企業局長殺人事件について、ドナー国が事件の真相解明を要求**

ニャウジュ反汚職局企業局長が殺された事件を受け、当地英国高等弁務官が代表を務める6ヶ国の外交団(英国、米国、アイルランド、ノルウェー、EU及びドイツ)は反汚職局を訪問し、同局と

の結束を内外に示すとともに、事件の捜査関係者に対し、いち早く事件の真相を解明することを要求した。また、同局の機能を損なわそうとする脅迫や賄賂を含むあらゆる行為に対して警告した。(7月24日、デイリータイムズ紙1, 3面, ネーション紙1, 2, 5面)

【経済】

・ 食糧危機

マラウイ脆弱性評価委員会(MVAC)の報告書によると、洪水や干ばつ被害により、10月から3月の期間に280万人以上(国民の20%)が食糧危機に瀕し、過去10年で最も深刻である旨発表された。政府は、約11.4万トンのメイズ(5,110万米ドル相当)が必要であると予測。財務・経済計画・開発省は、本年度予算よりメイズ調達のために2,890万米ドルの資金を拠出したが、深刻な食糧危機に対応するためには不十分であると述べている。(7月10日、ネーション紙1, 2, 3面, 7月12日ネーションサンデー紙3面)

・ クワチャ安の継続

例年この時期は葉タバコ取引でクワチャ高に振れる傾向にあるはずだが、現在主要通貨に対するマラウイクワチャ安の動きが加速している。中央銀行は、国内には3か月以上の輸入をカバーできる外貨準備があるため心配する必要はないとし、クワチャ安の継続については、外貨取引で利益を得るために市場関係者が外貨を保有していることが要因として考えられると述べた。(7月23日、ネーション紙2面, 3面, デイリータイムズ紙1面, 3面)

・ 一人当たりの国民総所得(GNI)250米ドル

世界銀行が発表した最新の報告によると、当国における2014年の一人当たりGNIは世界で最も低い250米ドルであり、世界最貧国として位置づけられる旨報道された。なお、1990年の一人当たりGNIは180米ドルであり、24年間でわずか70米ドルのみの増加である。(7月6日、ネーション紙9面, 10面, 7月7日、デイリータイムズ紙9面)

・ インドが23億クワチャ相当の医薬品を寄贈

インド政府は、国内の公的な医療機関に医薬品が不足している実態を受け、保健省に対し、23億クワチャ相当の医薬品を寄贈した。この医薬品の寄贈は、チリマ・マラウイ副大統領がインドを訪問した際に発表した500万米ドルの寄付金の一部とされる。(7月3日、ネーション紙3面)

・ 世界銀行がメイズの購入に1,600万米ドルを提供

政府は、人道支援を必要とする280万人に対して食糧援助を行うために、世界銀行よりメイズの購入のために1,600万米ドルの資金の支援を受けた旨発表した。(7月17日、デイリータイムズ紙2面)

・ **日本政府によるムワンザ県病院整備支援**

日本政府は、草の根・人間の安全保障無償資金協力事業において、ムワンザ県病院の医療サービス及び衛生向上を目的とし、5基の給水タンクの設置及び修繕、5基の太陽光発電設備の導入、下水処理タンクの設置、3棟の患者用トイレの建設及び洗濯場環境の修繕工事を実施した。引渡式にて西岡特命全権大使は、病院内の衛生環境の改善のために支援を実施した旨述べた。(7月17日、ネーション紙5面)

・ **葉タバコの取引状況**

葉タバコ生産者協会は、フルキュア一種の取引に関して、バイヤーが契約栽培農家(IPS)からの購入を優先する決定を受け、4週間停止しているオークション取引について政府が介入するよう求めている。農業・灌漑・水大臣はバイヤーとの会合を開き、フルキュア一種のオークション取引の停止、価格の低下及び高破棄率等の課題について言及した。タバコ規制委員会は今年の葉タバコの総売上は3億米ドルと予測し、昨年より6,200万米ドル減額する見込みである旨発表した。(7月110日、ネーション紙11,12面、デイリータイムズ紙9面、7月15日、デイリータイムズ紙3面、7月16日、ネーション紙1,2面、7月31日、デイリータイムズ紙2面)

・ **マラウイ政府200億クワチャの債券を発行**

28日、国内債務再建のために、200億クワチャの確定利付債(2年、表面利率14%)を発行した旨発表された。(7月28日、ネーション紙11面)

・ **中央銀行への預金準備率を7.5%に引き下げ**

中央銀行は貨幣の流動性を促し経済の活性化を図る目的で、預金準備率を現在の15.5%から7.5%に引き下げる金融政策を実施すると発表した。2007年2月に20%から15.5%に引き下げて以来、初の引き下げとなる。なお、政策金利に関しては現状の25%を維持するとしている。スタンダード銀行マラウイは、預金準備率の引き下げを受け、貸出金利を42%から36%、住宅ローン貸付金利に関しては32%に引き下げることを発表した。(7月30日、ネーション紙ビジネス1,2面、7月31日、ネーション紙2面)

- ・ **グローブ・メタル社探鉱権獲得に向け交渉**

グローブ・メタル社は、天然資源・エネルギー・鉱業省よりカニーカ・ニオブ鉱山の探鉱権の申請の許可が出た旨発表した。(7月8日、デイリータイムズ紙3面)

- ・ **洪水の復興・復旧支援に残り4億1,500米ドル必要**

マラウイ政府災害管理局は、洪水の復興・復旧支援のために必要とされる4億9,400万米ドルのうち、8,000万米ドルを確保することができたが、さらに4億1,500万米ドルが必要である旨発表し、ドナーに対して食糧支援とあわせ復旧・復興への支援を呼びかけた。(7月23日、デイリータイムズ紙3面)

- ・ **ザンビアがマラウイ鉄道とタザラ鉄道の結合を期待**

6日、マラウイ独立51周年記念式典にルング・ザンビア大統領が出席し、ムチンジ～チパタ(ザンビア国境)間の鉄道をタザラ鉄道(タンザニア～ザンビア間)と結合させ、地域統合への強化を図る旨公約した。(7月8日、ネーション紙1,2面)